

土木学会・海岸工学論文奨励賞を受賞しました(2014/11/13)

テーマ：海岸工学，災害科学，受賞
場所：ウイングあいち（名古屋市）

11月12日～14日に名古屋市で開催された土木学会第61回海岸工学講演会において，下記論文の第一著者である当研究所の福谷陽助手（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が，海岸工学論文奨励賞を受賞しました。同賞は，海岸工学論文集に投稿された論文の中から，得点上位のものを対象に海岸工学幹事会にて審議し，32歳以下の筆頭著者に対して授与されるものです。

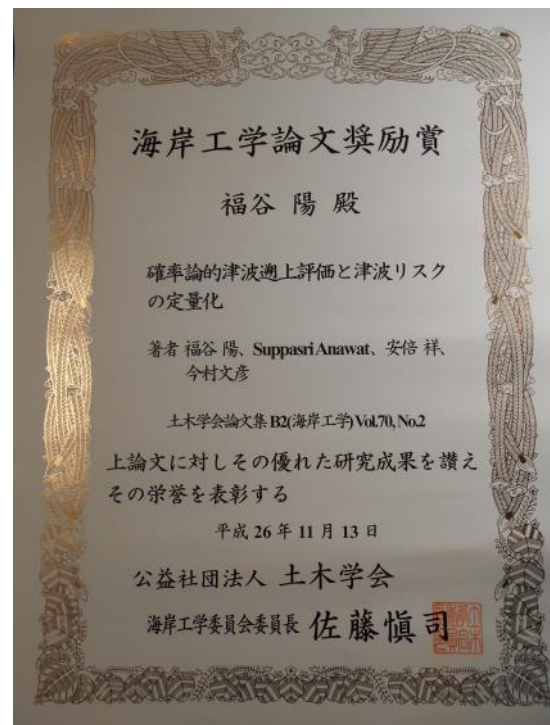
「確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化」

（著者：福谷陽，Suppasri Anawat，安倍祥，今村文彦）

同論文は，これまで提案されていた確率論的津波ハザード評価手法を応用して，確率論的に津波遡上域を評価した後，建物の津波による脆弱性を表現するフラジリティカーブを適用することで，津波リスクを定量化する，という趣旨の論文です。同論文で提案した手法は，国内外を問わず適用が可能であり，定量化した津波リスク指標を用いて，津波リスクの大きさを比較・検討することが可能です。従って，今後，防災，土木・建築，不動産，保険等の分野における意志決定時の指標として，有効に活用されることが期待できます。



授賞式の様子（左：福谷陽助手）



賞状

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）